

平成29年度

事務事業評価表 A (平成28年度の実績評価)

記入年月日
平成 29 年 3 月 9 日

Table with columns for 事務事業名, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, 法令根拠. Includes details for '子ども会育成連合会運営助成事業' and '青少年の健全育成'.

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ②担当が行う業務の内容・やり方・手順. Includes details about the organization and activities.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with 6 columns: ①手段, ④活動指標, 単位, 27年度(実績), 28年度(実績), 29年度(計画), 30年度(目標), 31年度(目標). Includes data for '子ども会育成連合会' and '青少年の健全育成'.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table with 7 columns: 27年度(実績), 28年度(実績), 29年度(計画), 30年度(目標), 31年度(目標), 期間限定総投入量. Includes sub-tables for '事業費内訳' and '人件費'.

Table with 4 columns: 28年度事業費実績 (千円), 29年度事業費予算 (千円), 合計. Includes '19 負担金補助及び交付金' and '合計'.

Table with 4 columns: (4) 当該年度の実施内容, 29年度の事業内容, 30年度の事業内容, 31年度の事業内容. Includes a list of activities and a right-pointing arrow.

事務事業名	市子ども育成連合会運営助成事業	事務事業No.	30301000648	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	子ども会の発展と次世代を担う青少年の健全育成を図るために実施。昭和30年代に始まったと思われる。開始時は明らかに少子化によって会員数が減少しており、負担の大きさを、事業の実施には欠くことのできない保護者の協力が得にくくなっている。また、他の青少年団体やスポーツ少年団など、子どもを対象とした事業・活動も行われており、子どもを対象とした事業はある意味飽和状態になっていると思われる。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	球技大会に関しては、保護者や役員の負担が大きいとの意見をはじめ、運営の在り方や事業そのものの在り方について意見をいただいている。主催者である市子連役員会では出場したいチームがある限りは大会を実施するとの意向なので、運営の補助にあたる行政担当者としては、団体の行事としていかに負担が軽減できるか模索する必要がある。 桜っ子探検隊、桜川市子ども会ぼうさい探検隊については、参加児童やその保護者からの反響は大きく、次年度も同様の開催を希望されている。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き世帯の増加に伴う役員の負担の増加、参加意欲の低下 ⇒役割分担制を確立し、各々の仕事量を明確にすることで役員の参加を促す ・子どもを対象とした事業が増加傾向にあり、飽和状態となっているため、子どもへの負担も大きくなっている ⇒関係機関、団体との連携・協力を図り、なるべく子どもの負担を軽減する必要がある
改革改善を行う	

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 施策体系 青少年活動の充実につながる。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 市内の児童生徒を対象としているため、公共関与は妥当であると考えられる。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 団体主導の事業運営の実施による成果の向上が期待される。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 現在の役員の大半が児童生徒の保護者であるため、行政がある程度関与しなければ、会自体が衰退していってしまうと考えられる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 青少年育成桜川市民会議運営助成事業 <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる 同じく児童生徒を対象とした団体との連携を促進することで、更なる成果の向上、経費の削減が期待される。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある 団体主導による運営を促進することで、担当者の業務時間を削減できると考えられる。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市内全域の児童生徒を対象としているため、公正・公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																				
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	行政主導の運営体制から団体主導の運営体制へと転換することで、担当者の事務量を削減できる可能性があるが、現在の役員体制では到底不可能である。共働き世帯の増加により、保護者への負担が大きくなっているため、時代に適合した役員体制の整備が急務である。																				
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																				
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる																				
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	<table border="1"> <tr><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr><th></th><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr><th rowspan="3">成果</th><td>向上</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr> <tr><td>低下</td><td></td><td></td><td>×</td></tr> </table>	コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○			維持			×	低下			×
コスト																					
	削減	維持	増加																		
成果	向上	○																			
	維持			×																	
	低下			×																	
■共働き世帯の増加に伴う役員及び保護者の負担の増加、参加意欲の低下 ⇒役割分担制を確立し、各々の仕事量を明確にすることで役員の参加を促す。 ⇒若者や子育てを終えた方など、子育てをしていない世代を巻き込んだ役員体制を確立し、子育て世代の負担を軽減させる。 ■子どもを対象とした事業が増加傾向にあり、飽和状態となっているため、子どもへの負担も大きくなっている。 ⇒関係機関や団体との連携・協力を図り、なるべく子どもの負担を軽減する必要がある。	(6) 事務事業優先度評価結果																				
	成果優先度評価結果 ③ コスト削減優先度評価結果 ⑦																				

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続 (現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続 (改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>